科目名			担当教員	
社会学と社会システム			牛渡　亮	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CC2169	2	1	RorSR（講義）	1 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

科目の概要

■科目の内容

近代以降の社会の発展は、それまでよりも豊かで便利な生活を私たちにもたらしました。しかしその一方で、近代社会に特有の社会構造は様々な問題を生み出し、私たちの家族関係や生活環境を脅かしています。とりわけ、20 世紀末葉以降の福祉国家の衰退と新自由主義の台頭は、社会の結びつきを揺るがし、「ソーシャル」（社会的なるもの）のあり方を大きく変容させています。

そこで本講義では、社会学の知見を通して、私たちの生きる社会について考察します。社会学は、19 世紀から 20 世紀に生きた人々がみずからの生きる社会を理解しようと努力する中で鍛え上げられてきた学問です。その成果を活用しながら、ひとりひとりが現代社会における「福祉」について考えるための視角を身につけてほしいと思います。

【スクーリングで学ぶ内容】

スクーリングは、内容のつながりを理解しやすいように、教科書の内容を再構成した 2 部構成となっています。第 1 部では、社会学の基本的な問題関心や分析視角を学習します。第 2 部では、福祉について議論する上で土台となる家族生活に関わる諸問題と現代の社会問題を取り上げ、福祉との関わりについて議論します。授業内容をみずからの生活や問題関心に引き寄せながら、積極的に考えてほしいと思います。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

教科書は、重要語句を覚えるだけではなく、どのような議論の中でその言葉が使われているのかを確認しながら読み進めてください。また、わからない言葉や興味を持った内容については、辞書や参考図書を活用して積極的に調べてください。

レポート学習は、授業内容を復習すると同時に、みずからの考えを表現する機会です。考えていることを文章にまとめようとすると、内容理解の不十分な箇所がはっきりします。その場合は、教科書や参考図書を読み直して、再度自分の考えを整理してください。

■到達目標

1）社会学の概念や語句を正しく理解し、説明できる。

2）近代以降の家族の変容を理解し、今日の家族に生じている問題との関連性を説明できる。

3）現代社会に生じている問題を理解し、それに対するみずからの考えを他者に表現できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%＋スクーリング評価 or 科目終了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］3 社会学と社会システム』中央法規出版、2021 年

（スクーリング時の教科書）スクーリング時は上記教科書を使用せず、資料を配付します。

【参考図書】

1 ）長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学 新版』有斐閣、2019 年

2 ）アンソニー・ギデンズ著『社会学 第九版』而立書房、2025 年

3 ）大澤真幸著『社会学史』講談社、2019 年

4 ）ピーター・L・バーガー著『社会学への招待』筑摩書房、2017 年

その他、教科書の節ごとに掲載されている参考文献も参照してください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

第 1 回から第 4 回までの第 1 部では、社会学を学ぶ上で土台となる用語や考え方について学習します。社会学の誕生は、近代社会の成立と切り離して考えることができません。そこで、近代化の背景や近代化による社会の変化を中心に学習します。単に用語や人名を覚えるだけではなく、なぜそれが重要なのかを説明できるように文脈の中で把握してください。

第 5 回から第 7 回までの第 2 部では、近代以降の家族に関わる問題と現代の社会問題を学習します。私たちは家族の一員として生まれ、生活し、またみずからも家族を形成し、育んでいきます。しかし、家族とは私たちがイメージするほど自明な存在ではありません。そこで、家族という身近な存在に対して、みずからの経験から一歩距離をとって冷静に観察し、理論やデータをふまえた客観的な議論ができるようになってほしいと思います。また、今日生じている社会問題には、近代社会に特有の構造的特徴が色濃く反映されています。そのため、第 1 部で学習した知識を総動員して、多面的に社会問題について検討してほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会学の視点	構築主義、相対主義、役割理論、社会学の歴史、社会システム
2	近代化と社会的連帯	社会変動、組織と集団、コミュニケーション、社会的連帯
3	地域とコミュニティ	地域、コミュニティ、都市化、社会的孤立、自殺、ひきこもり
4	自己と他者	社会的行為、社会的ジレンマ、環境破壊、ソーシャルキャピタル
5	家族とジェンダー	家族の概念・機能・形態、近代家族、人口構造、ジェンダー平等
6	格差と労働	社会的格差、正規雇用・非正規雇用、失業、社会政策
7	差別と偏見	逸脱、ラベリング理論、社会的排除、マイノリティ、多文化
8	質疑応答	ここまでのまとめ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング評価基準

到達目標記載内容に関連した問題を出題します（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書を一通り読んでください。難しい言葉や議論については読み飛ばして構いません。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

教科書をもう一度読んでください。事前学習の時とは違った発見があるはずです。また、関心を持った節の末尾に記載されている参考文献を読み進めてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会学の視点 (第 1 章第 1 節・第 2 節)	社会学の意義と対象、社会学の歴史	代表的な社会学者とその理論を中心に学習しましょう。
2	社会システム (第 2 章第 1 節)	社会秩序の構成、社会をシステムとしてみる、社会階層システム	パーソンズとマートンの議論を中心に学習しましょう。
3	組織と集団 (第 2 章第 2 節)	集団と組織、組織の合理化と官僚制、全制的施設、非営利セクターと非営利組織	社会学者たちが集団をどのように分析しているのかを比較しましょう。また、官僚制の特徴を整理しましょう。
4	人口 (第 2 章第 3 節)	人口増加の時代と人口減少の時代、日本の人口高齢化、日本の少子化、日本の移動	人口転換と少子高齢化を中心に学習しましょう。
5	グローバリゼーション (第 2 章第 4 節)	グローバリゼーション、日本における医療・福祉部門の外国人	ヒト・モノ・カネの移動を軸に、グローバリゼーションを整理しましょう。
6	社会変動 (第 2 章第 5 節)	社会変動とは何か、前近代社会から近代社会へ、社会変動の要因と諸相、現代社会におけるソーシャルワーカーの役割	前近代社会から近代社会への変化を、社会学者たちがどのように描いているのかを比較してみましょう。
7	地域 (第 2 章第 6 節)	地域とコミュニティ、地域社会をめぐる課題の背景、地域コミュニティと福祉コミュニティ	限界集落やソーシャルキャピタルを中心に学習しましょう。
8	環境と災害 (第 2 章第 7 節・第 3 章第 4 節)	環境破壊と再生・保全、持続可能な地域社会、被災地支援の考え方、災害の定義、発災後の被災地社会の変化	環境については持続可能性を、災害については被災体験を中心に学習しましょう。

9	社会的格差 (第３章第１節)	格差、格差と貧困、雇用格差、教育格差、健康格差	貧困や非正規雇用を中心に学習しましょう。
10	社会政策と社会問題 (第３章第２節)	産業社会の社会問題と社会政策、社会政策（福祉国家）の三つのタイプ、社会政策への批判と新しい社会政策	福祉国家の三つのタイプを中心に学習しましょう。また、ソーシャルガバナンスについても整理してください。
11	差別と偏見 (第３章第３節)	社会的排除・社会的包摂とは何か、偏見、差別、ソーシャルワーカーは偏見・差別にどう向き合うべきか	ラベリング理論を踏まえて、現代の差別について考えてみましょう。
12	家族とジェンダー (第４章第１節)	家族に関する基本的な概念、ジェンダーと近代家族論、近年における家族変動	家族の分類と機能、近代家族におけるジェンダー役割を中心に学習しましょう。
13	健康と労働 (第４章第２節・第３節)	自殺、依存症、心身の障害、慢性疾患、治療と仕事の両立、賃労働の誕生、労働市場の性質とルールの導入	健康については当事者概念を、労働については労働法を中心に学習しましょう。
14	世代 (第４章第４節)	世代と社会、ライフサイクルとライフステージ、ライフコース、個人化する社会と「社会問題」	ライフサイクル、ライフステージ、ライフコースなどの概念を整理しましょう。
15	自己と他者 (第５章)	自己と他者、社会化、相互行為	ミードによる自己の形成に関する議論を中心に学習しましょう。

■レポート課題

１単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
２単位め	前近代社会から近代社会へと変化するきっかけとなった出来事をまとめた上で、近代化によって社会がどのように変化したのかを多面的に論じてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

社会学を学ぶ上で大切にして欲しいことは、ひとつの社会現象を様々な視点から分析するということです。特に、福祉に関わる社会問題を考える場合、一問一答式にただひとつの「正解」があることは稀で、ほとんどはその問題を考える人の立場ごとに異なる解答があります。そのため、ひとつの問題を色々な側面から検討し、比較し、客観的なデータを参照しながら考察する多面的な視角が求められます。

今回出題しているレポートは、教科書の一部分を参照するだけでは不十分です。近代化の影響は、社会の様々な領域に及んでいます。したがって、それを分析するためには、色々な視点から考察を加える必要があります。採点する際には、どれだけ広い視野から問題を考えているのかを評価します。

また、教科書の内容に関する理解が正確かどうかを評価します。社会学で使用される概念や社会学者たちの理論には、難解なものもあります。そこで、教科書を読んでもよくわからない事柄については、辞書や参考図書で関連する内容を確認したり、スクーリングの資料を復習したりして、正確に理解できるよう努めましょう。なお、社会学で論じられる範囲は多岐にわたりますので、スクーリングですべての内容を扱うことはできません。そのため、単にスクーリングの内容をまとめるのではなく、教科書とスクーリングをうまく組み合わせて内容豊かで深みのあるレポートを作成してください。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

このレポートでは、前半でなぜ前近代社会から近代社会への変化が生じたのか、きっかけとなった複数の出来事とはそれぞれ何だったのかをまとめてください。その上で、後半では近代化が当時の社会にどのような変化をもたらしたのか、そうした変化は現代社会にどのような影響を与えているのかを論じてください。

なお、教科書の第 2 章第 5 節に「社会変動」という項目がありますが、この部分だけではなく、教科書の様々なところで近代化による社会変動が議論されています。そのため、第 2 章第 5 節を中心としながらも、教科書や参考図書をよく読んで、色々な問題を視野に収めたレポートを作成してください。

また、実際の社会変化と、そうした変化を観察した社会学者によって生み出された社会学理論とを適切に論じ分けてください。社会学者は予言者ではありませんので、「社会学者が言ったから、社会はこのように変化した」のではなく、「社会が変化したことを、社会学者はこのように解釈した」という順序で社会学理論が生まれていますので、論じ方に注意しましょう。

加えて、西洋社会の近代化と日本社会の近代化とは同列に論じることができないことにも注意してください。

科目修了試験

■評価基準

1）授業で学習した社会学の用語や概念を正確に理解し、解答する際に活用できている。

2）現代社会に生じている社会問題の歴史的背景を理解し、考察に反映できている。

3）問題解決に向けて、授業内容をふまえた建設的な議論ができている。

4）文章が読みやすく、適切な分量でまとめられている。